

浜松歯科衛生士専門学校 学校だより

短い梅雨が明けたとたんに猛暑となりましたが、学生たちは精力的に実習や行事をこなし、7月の終わりに全学年が夏休みに入りました。3年生は、夏季休暇中も学外の実習や就職活動と忙しくしております。1、2年生は課題の山と奮闘しつつ、楽しい夏の思い出作りにも…どの学年も学校生活後半戦に向けてエネルギーをチャージしてきてほしいと思います。

ボウリング大会 3年 伊藤 颯来

今年のボウリング大会は会場を貸し切り、125人の学生全員で行われました。開会式で鈴木慶太校長先生と学校部の竹山雅芳先生に始球式をしていただき、一斉にゲームがスタートしました。

最初はみんな楽しめればいなくらいに思っていたのですが、ゲームが進むうちにストライクを取り、スコアが増えていくとどんどん勢いがついて、真剣モードになりました。

まさか優勝するなんて思っていなかったのですが、優勝することができて本当に嬉しかったです。

友達が、ストライクやスベアを出したときには一緒に喜び、ミスしてもお互いに励まし合って笑いの絶えない時間でした。クラスみんなが一丸となって取り組むことができました。

学生生活最後のボウリング大会で、学年優勝もすることができ、ダブルでみんなと一緒に喜びを分かち合えたことが何よりの思い出です。最高の形で締めくくることができて本当に良かったです。この思い出をずっと大切にしていきたいです。



歯の健康フェスタ

3年 内山 瑠姫愛

私たち3年生は、6月に歯の健康フェスタに参加させていただきました。

公衆衛生活動を通して、口腔機能の衰えである「オーラルフレイル」の重要性を学びました。わずかな噛みにくさや滑舌の低下が、全身の健康や生活の質の低下につながることを知り、日常の中での小さな変化に気づく観察力が大切だと感じました。

今後の臨床・臨地実習では、患者さんの表情や話し方、生活背景に目を向け、口腔機能の維持・回復に向けた関わりを意識していきたいです。また、予防の大切さを伝えるだけでなく、一人ひとりに合った具体的なケア方法を提案できるよう、信頼関係を大切にしたい対応を心がけたいと思います。今回の経験を将来に活かしていきたいです。

今後の臨床・臨地実習では、患者さんの表情や話し方、生活背景に目を向け、口腔機能の維持・回復に向けた関わりを意識していきたいです。また、予防の大切さを伝えるだけでなく、一人ひとりに合った具体的なケア方法を提案できるよう、信頼関係を大切にしたい対応を心がけたいと思います。今回の経験を将来に活かしていきたいです。



健康教育実習 2年 濱崎 愛加

健康教育の実習で口腔内を健康に保つ必要性や正しい歯ブラシの方法などを幼稚園や小学校で子供たちに指導するという貴重な経験をしました。この発表に向けて、約2か月間という長い期間をかけて専門用語を子供たちにわかりやすく、楽しく伝えるために何度も推敲を重ね、シナリオ作成や媒体作成、ロールプレイングを何十回も行いました。

最初は戸惑うことばかりでしたがやっといううちに班員の1人1人が意見を出し、話し合い、少しずつ形になっていく過程を楽しめるようになっていきました。それでも本番初日は不安でした。子供たちは目を輝かせながら沢山反応してくれて「届いたんだ」と、一気に胸が熱くなりました。

伝えることはとても難しいけれど、伝わるとこんなに嬉しいものなんだと実感し、将来伝えることに真っ直ぐむきあえる歯科衛生士になりたいと強く思いました。どれだけ準備しても予定通りにいかないこともある中で、仲間と連携を取りながら柔軟に対応することができ、一体感を感じました。

歯科衛生士の現場でも、このような力は必ず求められると思います。今回の貴重な経験をふまえ、これからも、さまざまな世代の方々にお口の健康の大切さを伝えるために正確な知識と共に表現力も高められるよう、日々の学校生活を送りたいと思います。

